

5月には世界フェアトレード月間

～フェアトレードの現場を歩く～

メキシコで（先住民が）カフェオープン

フェアトレードによって生産地と生産者にどのような変化がおき、私たちの暮らしとどうつながっているのか？

メキシコで最貧州といわれるチアパス州の先住民によるコーヒー生産組合から届くフェアトレードコーヒー。

メキシコで、そのコーヒーの品質管理の向上、加工・焙煎そしてカフェ経営の支援活動を行ってきた講師をお招きして、現地の状況などを伺いながら「自由で公正な経済」について考えます。



講師：山本純一氏

日時：2017年5月27日（土）

13:30～16:00

会場：あいち国際プラザ 2階 アイリスルーム

参加費：500円（コーヒー代、お菓子代）

定員：50名（先着順）

★当日はマイカップをお持ち下さい★

《講座内容》

13:30 開会

13:35 講演 山本純一氏（慶應義塾大学名誉教授）

フェアトレードの現場と先行研究から

第1部：「メキシコ・チアパス州で先住民がカフェをオープン」

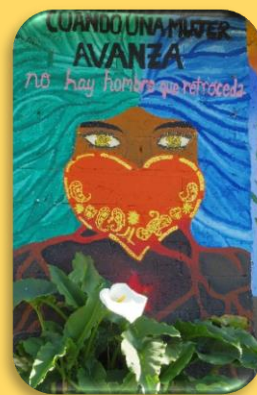
14:35 質問タイム

15:55 休憩

15:05 第2部：「フェアトレードを学ぶためのブックガイド」

15:35 交流タイム フェアトレードコーヒ&お菓子を楽しもう♪ 

16:00 閉会



申込方法はウラへ

講師紹介：山本 純一氏

慶應義塾大学名誉教授。専門はメキシコの政治経済、南北問題、連帯経済。メキシコ南部先住民コーヒー生産者との出会いによってフェアトレードを実践し、研究するようになった。実践としては、JICA草の根技術協力事業のスキームを使って先住民組合が直営するカフェの開店支援、研究としては、共編著『協働体主義—中間組織がひらくオルタナティブ』など。現在、『大学生のためのフェアトレード論—経済と理論の関係を考えるための読書案内（仮題）』を執筆中。

★フェアトレード

社会的に弱い立場の人々が自立できるよう、対等なパートナーシップを築く貿易のこと。国際フェアトレード基準では、「長期的な安定した取引」、「安全な労働環境」、「環境に優しい農業」などといった認定基準が設けられており、その基準に達した商品を購入することは、児童労働などの「貧困」を断ち切り、人としての暮らしが保証されること、森林伐採などの環境破壊から地球を守ること、などにつながる。

★フェアトレード・タウン

行政、企業、お店、学校など地域社会全体で、フェアトレードへの関心と理解が深まるよう、人々がつながりながらその普及を継続して推進する街のこと。フェアトレード・タウンになることで、フェアトレードが更に広く浸透することや、共に生きる街づくりが期待できる。日本では、熊本市が2011年にアジア初のフェアトレード・タウンとなり、2015年名古屋。2016年には神奈川県逗子市もフェアトレード・タウンとなった。各地で今も活発にフェアトレード・タウン運動が繰り広げられている。

◆申込方法/先着順

①お名前 ②電話番号 ③Eメールアドレス

をご記入の上、EメールまたはFAXで下記申込までお送り下さい
※定員に達し、ご参加いただけない場合のみご連絡させていただきます



[申込先・問合せ先]

公益財団法人 愛知県国際交流協会
交流共生課 交流担当
〒460-0001 名古屋市中区三の丸
2-6-1
TEL: 052-961-7904
FAX: 052-961-8045
Eメール: koryu@aia.pref.aichi.jp

※ 講座当日、各種警報が発令された場合をはじめ、参加者に危険が生じると主催者が判断した場合は、講座を中止することがございます。開催可否の判断に迷われた場合は、上記問合せ先にご連絡ください。